



ユネスコエコパーク通信

Vol.2(R7.10.31 発行)

11月3日と言えば「文化の日」ですが、実は「国際生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)の日」でもあります。2021年の第41回ユネスコ総会で決定されました。第2回目となる今回は、第1回目の復習をしつつ、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークのロゴマークについてご紹介します。

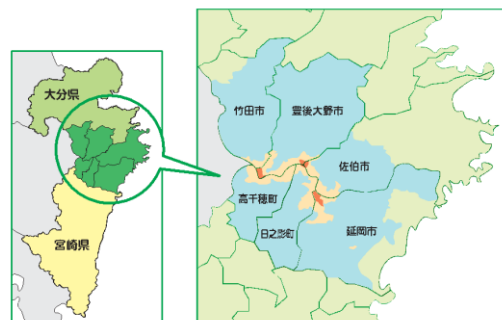
そ ぼ かたむき おおくえ 祖母・傾・大崩ユネスコエコパークとは？



図：祖母・傾・大崩 BR 公式パンフレットより

ユネスコエコパークに登録された地域は、**自然と人とが共生している地域**として国際的に高く評価されています。日本国内での登録地域は、わずか10か所でそのうちの1つが佐伯市宇目を含む祖母・傾・大崩ユネスコエコパークです。

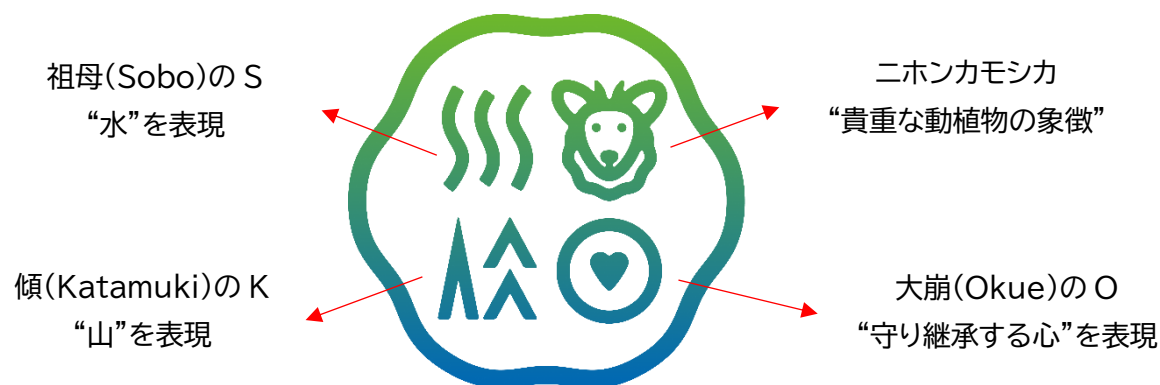
祖母・傾・大崩ユネスコエコパークは、「**尖峰と溪谷が育む森と水、いのちの営みを次世代へ～自然への畏敬をこめて～**」を活動理念とし、登録地域の2県6市町で自然と人とが共生するための活動を行っています。



祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク登録地域

大分県：佐伯市、竹田市、豊後大野市
宮崎県：延岡市、高千穂町、日之影町

ロゴマークについて



祖母(Sobo)の S
“水”を表現

ニホンカモシカ
“貴重な動植物の象徴”

傾(Katamuki)の K
“山”を表現

大崩(Okue)の O
“守り継承する心”を表現

上記4つのマークを6市町を意味する緩やかな六角形で包み込むことで、
“自然と人との共生”を表現し、
ロゴマークの色は“自然の懐の深さ”を表現しています。